



風神雷神門

The Door Step to Japan

vol.39

2017年 秋冬号

日本の扉
浅草
浅草・槐の会
ASAKUSA

平成二十九年丁酉

平成三十年戊戌

七月 (支月)	九月、十日 四万六千日 <small>(ほおすき市)</small> 二十九日 隅田山花火大会	一月 (睦月)	初詣 浅草名所七福神もろで
八月 (葉月)	十五日 万霊燈籠供養会 二十六日 浅草サンバカーニバル	二月 (如月)	三日 節分の日 八日 針供養
九月 (長月)	五日 台東薪能 二十三日 彼岸会	三月 (弥生)	十八日 浅草観音示現会・金龍の舞
十月 (神無月)	十八日 金龍の舞・ 菊供養	四月 (卯月)	八日 釈尊誕生日 <small>(花まつり)</small> 中旬 白鷺の舞 中旬 浅草流鏑馬 中旬 早慶レガッタ
十一月 (霜月)	三日 白鷺の舞 六十八、三十日 酉の市 十五日 七五三	五月 (皐月)	五日 宝の舞 中旬三 社祭
十二月 (節走)	十七、十九日 歳の市 <small>(羽子板市)</small> 三十一日 除夜の鐘 <small>(弁天山)</small>	六月 (永無月)	二十三日・二十四日 お富士様の植木市

浅草を彩る9月~2月の代表的催事

9月 長月

彼岸会

● 9月23日

お彼岸は、気候もよく太陽が真西に沈むこの時期を修行にあて、太陽の恵みに感謝し五穀豊穡を願う祈りに端を発しています。浅草寺では、五重塔に霊拝を安置しているご信徒に拝殿を開放し、自由に参拝していただいています。

10月 神無月

金龍の舞

● 10月18日

浅草寺の正しい名称は「金龍山浅草寺」といいます。金龍山の山号は、浅草観音承応縁起に書かれている「十八日、寺辺に一夜にして松千株ほど生ず、三日を過ぎて天より長さ百寸ばかりの金鱗の龍、松の中に下りし」に由来しています。この故事を踏まえて創作された舞が「金龍の舞」です。毎年3月と10月の18日に、いなせ半纏、はらがけ、もも引きの江戸っ子姿の浅草寺舞保存会メンバー9名の手によって勇壮に演じられています。



10月 浅草菊花展

11月 霜月

白鷺の舞

● 11月3日

今でも浅草は江戸の名残を最も色濃く残す町、東京の代表的下町として全世界の人々の人気を博しています。平成元年11月3日から始められた「東京時代まつり」は、東京の歴史と文化の原点は浅草であるという観点から、江戸・東京の歴史絵巻の行列が浅草の町を行進します。さまざまな時代絵巻は、多くの観客を集める催しとなっています。この時代絵巻の一つに白鷺の舞があります。白鷺の舞は古い時代の祭礼行列の中にある「鷺舞」の姿を浅草観光連盟が復興したものです。

酉の市

● 11月6・18・30日

酉の市は、秋の収穫期に神社に鶏を奉納した「とりまつり」に由来し、神社から農家に授ける熊手が「とりこむ」ということで縁起が良く、商売繁昌を願う催しとなりました。酉の市で有名なのが浅草・千束にある鷲（おおとり）神社。その愛称である「おとりさん」がいつしか酉の市のことを指すようになりました。酉の市は11月の酉の日に開かれます。三の酉までである年は火事が多いという俗説がありますが、今年は二の酉まで。といっても、火の用心にはお気をつけ下さい。



11月 白鷺の舞

12月 師走

納めの観音、歳の市《羽子板市》

● 12月17~19日

毎年観音様の御縁日である18日の前後を含めた17、18、19日の3日間行われており、もとは正月の飾り物などを中心とした市でした。今でも観音北側の広場では、しめ飾りなどの卸売りをするお店も立ち並び通常「ガサ市」と呼ばれ、これを小売りする人達が仕入れにきています。江戸末期より「生まれた子が邪気をはねのけ健やかに育つ市に通じる」との謂れから女兒の出産には必ず羽子板を贈る風習が始まり、今では「羽子板市」と呼ばれるようになりました。



1月 浅草観音初詣



2月 節分会

1月 睦月

浅草観音初詣

● 1月1日

除夜の鐘と浅草寺開扉とともに始まる初詣。正月期間中、表参道である仲見世をはじめ境内は華やいた人々で埋まります。

2月 如月

節分会

● 2月3日

節分とは一年の春夏秋冬を分ける言葉で本来年に4回あるはずですが、現在では立春の前日のみをさしています。浅草寺では1時と2時の2回にわたり、信徒の有志が年男となり本堂東側回廊の舞台で、また西側影向堂の舞台では観光連盟主催による豆撒きが古式追儀式の終了後2時半~6時までの間5回に分けて行われています。



1月 江戸消防記念会・はしご乗り

9月~2月 その他の催事

- ◆ 七五三加持会……………11月15日
- ◆ 除夜の鐘……………12月31日
- ◆ 浅草名所七福神詣り……………1月1日~
- ◆ 江戸消防記念会・はしご乗り…1月6日
- ◆ 待乳山聖天・大根祭り……………1月7日
- ◆ 針供養……………2月8日

第三回

「浅草神社の歴史
前編」

浅草寺子屋

講師
荒井修

この記事は2010年に文化・芸術・観光のまちづくり協会が主催した「浅草寺子屋」の内容を再現したものです。講師を務めたのは我が槐の会のメンバーであった荒井修氏。浅草の老舗舞扇店「荒井文扇堂」の四代目店主です。この講演の6年後、2016年2月22日に逝去されました。浅草や江戸の文化に精通し、浅草の町興しのオビニオンリーダーでもあった氏の知見を後世に伝えていくために、小誌ではこの記事企画しました。

浅草神社=三社様
祀っている3人は誰？

どうも、今日も寺子屋の授業にお越しいただきましてありがとうございます。昨日は大変な雨で、その中5時から日本橋高島屋で扇子の話をするということで行ってきましたけど、すいぶん多くの人に来てくれてありがたかったですね。最近いろんなどころでお話しするようになりまして、気楽に喋ってるなど思われるでしょうけど、一応前日からここに来る直前まで資料を見直したりしてけっこう大変なんです。陰じゃ私も神経質というかデリケートなところがありまして、そう見えないところがすごいですな(笑)。

図1：浅草神社社殿



去年は浅草神社の歴史と三社祭の歴史を1回で話したんですな。こりゃ大変です。最後の方は呼吸困難になって、どこまで走ったんだかわかんない。たぶん聴いてる人はもっとわからなかったんじゃないかと思うんですけど、今年からは神社の歴史と三社祭の歴史を分けますんで、前回よりはわかりやすいんじゃないかなと思います。ちょっと暑くなったんで羽織だけ脱がさせていただきますね。

えー、浅草神社(図1)。皆さんご存知のとおり、三社様ですね。三社様のことはわかってるよという人がいっぱいいると思います。前回の浅草寺の話にも出てきました。漁師の檜前浜成・竹成(ひのくまのはまなり・たけなり)兄弟が網にかけて観音様がご示現あそばした。それを最初にご覧に入れて、自分の屋敷を寺に改装して祀ったのが郷司の土師中知(はじめのなかとも)。この3人をお祭っているのが浅草神社です。

でも浜成・竹成や中知が何歳だったかは、どう調べても出てきません。ただ中知という人は舒明天皇(じょめいてんのう)の11年といえますから、639年の3月18日に亡くなっています。3月18日、つまりご示現の日と同じ日に

亡くなっているんですね。そして浜成・竹成もそれ以前に亡くなっている。ご示現が628(推古天皇36)年ですから、わずか10年くらいで3人ももういないということでもあります。それを頭に入れて3人の話をしたいと思います。

相撲の猛者・野見宿禰
意外にも土師中知と…

土師中知は土の師と書から、土に関係のある人ではないか、というのはわかります。そして土師氏というのはかなり全国に散らばっています。もともとは出雲の国の人だったらしいです。で、この人が土師中知という名前になる前は、実は野見宿禰(のみのすくね)(図2)でありました。聞いたことあるなっていう人は、大概がお相撲でだと思うんですね。野見宿禰っていう人は出雲の国の勇士で大変強かったそうです。それまでは神様と神様が相撲を取っていたんですけど、人間で初めて相撲を取った人です。相手は誰かという、当麻蹴速(たいまのけはや)という人です。蹴るのが速いんですな、サッカーの選手になったら良さそうです。奈良県出身です。「奈良県出身、高砂部屋…」なんてアナウンスが聞こえてきそうですけど。とにかくにも、この2人が相撲を取った。

この頃の相撲というのは、今とだいぶルールが違うんですね。蹴っていいんです。蹴速っていうくらいだから、蹴ったら強かったんでしょうな。でも最終的にどうなったかという、宿禰が蹴速を踏み殺したんです。「踏み殺した」ってすごいですよね。蹴って倒して、腰の骨を踏んで折って、蹴速は死んだんです。

蹴速の故郷は奈良県葛城市というところなんですけど、勝者は敗者の地をただけちゃうんです。すごい世界ですな。それだけじゃなくて、勝者にはもう一つ大きなプレゼントがある。天皇に仕えることができたんです。垂仁天皇の時代、仕事は宮内庁の冠婚葬祭を承る。宮内庁って庁はなかったでしょうけどもね(笑)。で、その時までは天皇と皇后が亡くな



図2：相撲の聖地・両国にある野見宿禰神社

ると、仕えていた人は皆、殉死しなければいけない。自ら死んで、一緒に埋められちゃうんです。宿禰はそれを改良したんです。「何も人間が死ぬことはない」ということで、埴輪を埋めるようになったんです。

垂仁天皇の奥さんがいるんですけども、ひばすひめのみこと。日曜日の日にミツカン酢の酢、愛媛県の媛と書きます。それに命と書いて日葉酢媛命。この人が亡くなった時に、殉死じゃなくて代わりに埴輪を入れたんです。人は死ななくていいようにしたんだから、大したもんでしょ、この人。偉いなと思うけどね。

チャキチャキの江戸っ子は
間違い。本来の言い方は…

ということで、埴輪を作るためにいろいろ土地のいい土を求めることになる。それで土師という名前を垂仁天皇からいただくんです。宿禰の親戚一同全部土師氏になる。この土師氏が全国に散らばるんですな。特に上野の界隈にはいっぱいいたそうです。

観音様がご示現したのは628年。その100年くらい前まではこの浅草というのはほとんど海の中だと言いましたけれど、小高いところが上野など何か所があったんです。100年の間に海がだんだん引いてって、浅草の土地は陸地として、みんなが住めるようになっていく。土師氏の人がこの長(おさ)ということやって来た、それがどうやら中知さんだったということです。

天皇ともそういうつながりがありまして、横綱になる時に横綱の位をあげていかと相談していた五条家という相撲司家は、野見宿禰

の子孫でした。家元というか宗家というか、そういうような感じなんでしょうな。

浜成・竹成の檣前も、同族だったといえます。家臣として仕えていた。それでこの3人が亡くなったあと、中知の嫡子…嫡子ってわかりますか？ 嫡男、後継ですね。

あの、よく「チャキチャキの江戸っ子だ」なんて言いますね。あれ、間違いですよ。本当は「チャクチャクの江戸っ子だ」ですよ。だから嫡男、嫡男と三代続かなければいけないんですね。女の人は申し訳ございません。だけどおかしいでしょ、「チャクチャク」は。言にくいでしょ。だからチャキチャキに変わったんですね。

浅草神社を創設したのは土師中知の嫡男

この嫡男が観音様の夢を見るんです。「なんじの親たちは私を水中から拾い上げて、大変よく供養してくれた。その功績は賞すべきである。観音堂のすぐそばにお堂を立てて鎮守せよ。三社権現と称すれば、その土地も子孫も長く繁栄するであろう」と夢のお告げがあったというんですけれど…これ、嘘ですね。どこが嘘かという、他は正しいのかもしれないけど、「三社権現と名乗って」というところが嘘です。この時代、権現思想というものはまだなかったんですよ。神社はもちろんですけれど、権現思想というのは中知が死んでから250年くらい経たないと出てこないんですね。

神道ということから言えば、31代用明天皇の時代、飛鳥時代には日本書紀に出てきます。だから神道自体はあったけれど、権現というのが出てくるのは931(承平元)年ですから、だいぶ後のことになるんですね。

権現というのは何かといえば、仏様が菩薩様が人間のような仮の姿で出てくる。そして日本の神様になるということなんです。言ってることわかる？ わかりにくいよね？ 中知というのは阿弥陀如来の化現(かげん)なんで

す。阿弥陀如来が中知という姿になって人間界に現れて、そして神になるんだよ、という考え方。じゃあ浜成はっていうと、観世音菩薩の化現。竹成はっていうと勢至菩薩の化現であるというふうに言われています。ですから「三社権現と名乗れ」っていうのは、ちょっとおかしいと私は思います。歴史的に正しくないんですね。

こういふところですよ、大切なのは。「縁起」というのはあくまで縁起であって、歴史じゃない。「歴史」というのは史実と照らし合わせて間違いないというのをいいます。縁起というのは神社とか寺が、当時の広報がパンフレットみたいなものを書いていたりとかするんでしょうね。まあ、広報担当者というのがいたかはわかりませんが。

もっけの幸いの“もっけ”って何のこと？

「怨霊」ってあるじゃないですか。怨みを持って死んだ人たちが霊になったという。まあ、あるかどうかかわからないですよ。私もあまり親しくしたことも見たこともないですけど。その怨霊を慰める意味で御霊社(ごりょうしゃ)というのが各地にできるんですね。この怨霊を慰めるために祀っている牛頭天王という神様も、権現思想の中では薬師如来が変化したものと考えています。

怨霊というのは「もののけ」ですからね、全員に見えるもんじゃないんです。見えたっていう人もいれば見えないっていう人もいるUFOみたいなもんですね。ただ「与話情浮名横櫛(よわなさけうきなのよこぐし)」というお芝居の中に、「疵(きず)がもっけの幸いに」なんていうでしょ。「もっけの幸い」って何なのか？「もののけの幸い」ですよ。もののけに出くわすってことは、そうそう無いじゃないですか。めったにない幸い、これをもののけの幸いって言ったわけですね。それが詰まってもっけの幸いとなっていったわけなんです。

偉い人の住むところは今も昔も高いところ

だいぶ話が逸れましたので、中知と浜成・竹成の話に戻します。どこに住んでいたの？って言われると、これも困りますね。ただここで大事なのが、観音様がご示現したのが、今の今戸の辺りと言われてますね。それからずっと船が下って来て、今の駒形堂(こまんどう)のところから陸に上がったと言われているんですけども。となれば、浜成・竹成の家は、駒形堂に限りなく近いだろうと。そりゃそうでしょ、自分の家からずいぶん離れたところに駐車場を置く人もいないわけですよ。なるべく近くに船着場があったほうが便利ですから(図3)。

じゃあ中知の家はというと、これはいろんな説がある。一つは、やっぱり駒形堂のそばというんですが、それは有り得ない。なぜかと思ったら、その翌日に浜成・竹成は中知のところに言いにいくんですよ。こんなものが綱にかりましたと。隣近所だったら、その日に行けや、という話になりますね。一晩待つ必要はないということですね。

浜成・竹成にとっては初めて見たもんです。前回、仏教伝来というのは「ごみや」だと言ったのは覚えてますな。538年に仏教が伝来し

て、ご示現が628年。わずか90年後ですよ。仏教が百済から大阪灘に来て。大和川を上って奈良に仏具が届けられた。これがごみやです。テレビもないんですよ、ラジオも新聞も週刊誌も、何もありませんよ。それが野を越え山を越え、口伝えでちょっとずつ伝わる時代ですよ。ある程度、位のある人なら情報があるかもしれないけれど、果たして漁師の耳にまで伝わるだろうか、90年で。それも中知という人は、ひと目見ただけで聖観世音菩薩の尊像だってわかるわけですよ。今だってどれが勢至菩薩かお釈迦様なのか、何だかわからない人、いっぱいいるでしょう？ 仏像を見てわかります？ これを見てわかるのは、相当の知識人だということができるわけですね。そういうような知識人が、土を求めて渡り歩くから、いろいろな形で情報は入ってくる。

そういう位の高い人がすぐ隣に住んでたりすることは有り得ないでしょ。村長ですよ。たいがいそういう人は少し高台に住みます。あんまり下町に住んでる大統領っていうのは聞いたことがないですね。大水が出た時にどうするか考えなきゃいけない。そうするとこの近辺でどこが一番高い位置にあるかってことを考えます。

ここでこれが活躍するんですよ。江戸時代の地図です。ここに観音様(浅草寺)があつてす

図3：今戸箕輪浅草絵図(嘉永6年尾張屋版切絵図より)





図4：姥ヶ池の
旧跡は花川戸
公園にある

っと下に来ると、こここのところわかります？
これが「姥ヶ池」です（図4）。姥ヶ池伝説知って
ます？ お婆さんがね、娘と一緒に住んで
て、旅人が来てと殺して身ぐるみはいで、999
人まで殺すんです。そしていよいよ1000人目
の旅人を殺しちゃうんです。ところが旅人だと思
って殺したのが自分の娘で後悔するという話。
これは浅草寺の絵馬の中でも「一つ家」とい
う絵で残ってますけれど。

賛同者が多数 中知の家は待乳山説

その姥ヶ池のすぐそばに「一の権現社」つ
ていうのがある。これを見つかるんですね。と
ころがどの時代の地図を見ても二の権現社、
三の権現社ってないんです。一の権現って何
かっていうと、三社祭の一の宮、二の宮、三の
宮ってあるでしょ。一の宮は中知の御霊が遷
されるわけでしょ。二の宮は浜成、三の宮は
竹成。一の宮は、中知じゃないですか。その権
現社がここにあるわけですよ。そうするとこの
辺りが家なのかなってというのは考えられる。

しかしここはまだ低いんです、土地としては。
この頃どこが高かったかっていうと、ここで
待乳山聖天様（図5）。これは僕の説ですよ。
でも何人かの人にこの話をしてみると、「私も
そう思ってる」という人がけっこういます。
それも私みたいじゃなくて、もっとしっかり
した資料を集めて研究した人も、私と同じ意
見でした。だから割と自信を持って言っちゃ
うんですけどね。

でなぜ、僕が待乳山というかという、この
時代は「待乳山」ですけどね、もうちょいと前

の地図を見ると「真土山」と書いてあります。
土師中知という人は、神様になると名前が変
わるんですよ。どういう名前になるかといっ
たら、土師真土命（まつちのみこと）なんです。
あるいは土師真中知命（まなかちのみこと）
ともいうんですけど。その時は真実の真に土
と書くんです。ほら、だんだん近いところに
きましたでしょ。こうやって謎を解いていくの
が楽しいんです。文化っていうのはね、わか
っていない隙間をどうやって埋めていこうか
っていうのが楽しいんです。

それで中には真中知の「マ」は真ではない
という人もいます。直角の「直」ではなかつ
たかということですね。直って書くと「あた
い」ということなんです。直っていうのは位
です。土師直中知命（あたいなかとも）とい
う人もいます。だからこの辺がまだ埋め切
らない難しいところなんですけどね。

真人中知と書かれた史料もあります。寛政
の改革があった頃のものですね。その前に
田沼意次という…やな爺です（笑）。賄賂ば
っかりしなればいけぬ。それでしっかりし
すぎちゃったのが松平定信という人ですね。
この人は儉約令というのを出さずして、儉
約すぎて評判が悪くなっちゃった人ですけ
どね。ちなみにこの頃ですよ、かんざしの
先が耳かきが付きましたの。小さな耳かき
がついてるじゃない？ こんな豪華なもの
を使っちゃいけないって言われた時に、「い
え、これ髪飾りじゃなくて耳かきです」つ
ていう方便のために付けたものだから。
だから江戸初期のかんざしには耳かきが
ついてないです。江戸の中期になって初
めて耳かきがついたんです。寛政の改革
が江戸のデザイン文化にまでなったとい
う、…なかなかいい事言うでしょ？ 僕、
脇道に逸れるといいて言われるんですよ。
脇道逸れた時の話が一番だって山口智子
も言ってましたけれどもね。余計なお世話
ですよ。

まあそんなことで、中知さんの家は、僕
が思ってるところでは、ちょっと、さっき
の地図出

してくれる？ 土地の郷司ですから、そんな狭
いところにいるわけねえや。聖天様から一
の権現あたり一帯の土地をそっくり持ってい
るってことはありえるんじゃないかと。

名字までわかっていた 十童子の子孫たち

それから浜成・竹成が拾った時に、槐の木。
木偏に鬼って書くんですけども、この槐の
木の切り株にまず観音様を祀るんです。で、翌
日行ってみると、一夜のうちに「あかざの
草堂」というのが建てられていて、そこに
祀られていた。このあかざの草堂を作った
のが10人の子供達と言われていて、十童
子といひます。そして草堂ができたのを
お祝いして踊ったのが、現在のびんざ
さら舞の原点と言われています。

びんざさら舞というのは十童子の子孫
によって守られてきたんです。江戸時代
にはまだこの近辺に、その10人の子孫
が住んでたんですよ、実在して。名前も
わかってるんですよ、材木町で今の駒
形堂から雷門郵便局の辺りに勝田さん
という人が住んでいて。それから花川戸
の辺りに江原さんという人が居る。こ
れみんな十童子の子孫ですよ。それから
一の権現社のこっちかた、川に近い方
ですけどね、山之宿町に三田さんとい
う人がいます。その他、場所はわか
ないけど、当麻さん、島田さん、関口
さん、それから室田さん、坪井さん、
樋口さん、真井さん。この10人が十
童子の子孫としてびんざさら舞をず
っと継承してました。そのうちに観
音様の裏のところに十社権現とい
うお社がありまして、そこに祀ら
れるんですけども。

で、草堂が建つと同時に、千株の松が
生えて並んだといわれています。え〜と、
有り得ません（笑）。でもいいんです、
そういうふうに使われています。びんざ
さら舞は1956（昭和31）年に東京都
の無形文化財になっています。大正から
戦前くらいまでは千束七ヶ町会とい
うところで守られてきました。だんだん
子孫の方たちがいなくなると、そうい
う会が



図5：高台にある待乳山聖天

できて守っていくようになる。戦後にな
ると千束七ヶ町会を中心とした神事びんざ
さら保存会で維持継続されていくことにな
る。

びんざさら舞は田楽舞ですね。農業の方
の。だから五穀豊穡、悪霊退散なんてこと
をやるわけですね。それからその中に2頭
のお獅子が出てきますけれども、これは害
虫とか、疫病退散などです。びんざさら舞
は、木の板がいっぱい付いて、チャラチャ
ラってやるわけですよ。これが田楽舞とい
うことは、浅草の土地では農業もかなり
やってたってことがわかる。この10人の
子供たちを草刈童子ともいいます。浜成・
竹成は漁業でしょ。農業、漁業があつて、
村の長もいて、コミュニティとしてしっ
かりしていたものが出来ていたことがわか
るわけですよ。

ところが残念ながら、浅草神社に漁業の
舞ってないんです。というのは観音様が
最初に上陸した駒形堂のところに、今でも
殺生禁断の戒殺碑というのが残っています。
駒形堂から上流は殺生禁断で魚を捕ち
いけなくなるんですよ。そうすると浅草
の漁師は浅草で生活できなくなり、どこ
に行ったかという、大森海岸です。こ
れは三社祭の時にまた詳しく話します。
昔の三社祭の形態では浅草見附まで
神輿を持っていった。今の浅草橋の
辺りですよ。そこで待ち構えているのが
大森海岸の漁師たちです。朝から船を洗
って、塩を振って洗い清めて、見附まで
来た神輿を船に乗せる、これが漁師た
ちの仕事です。今の大森海岸の人たちは
あまり浅草にゆかりがあるって思
ってないと思うんですけど実はそうなん
です。だから当然、三社祭に参加する
権利があるわけなんです。（次号に続
く）

ウチのイチオシ!

べんがら

飛び石模様のれん

お店の紹介は P.24

地図 P.14-B2

電 03-3841-6613

営 平日
10:00~18:00
土日祝
10:00~19:00

住 台東区浅草
1-35-6

休 第3木曜日

<http://www.bengara.com/>



1986年に創業したのれん専門店のべんがら。店主・石塚貴久治さんがおススメするのは「飛び石」をモチーフにしたのれんです。「ある庭園で敷石を見た時、幾何学的でモダンな印象を受けて、ローケツ染めで石のイメージを出してみました。地色がグレーなので、民家風の家にも洋風のマンションにも和を演出できると好評です」。近年は外国人や海外在住の日本人への贈り物としても喜ばれているのれん。「店用、個人宅用から楽屋のれんまでオリジナルをオーダーで作ります。お気軽にご相談下さい」。

一丁目

トマト・チーズ・ベーコンもんじゃ



お店の紹介は P.19

地図 P.14-A1

電 03-3845-7566

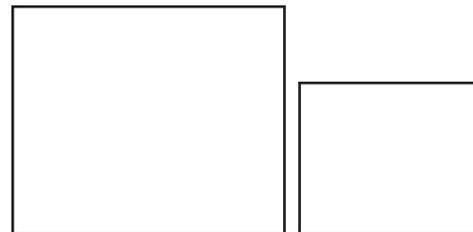
休 月曜日

住 台東区浅草1-21-2

(月が祝日の場合は翌火)

営 火水木 12:00~15:00 / 17:00~22:00
金 17:00~22:00 土日祝 12:00~21:00

<http://asakusa.gr.jp/shop/icchome.html>



1984年より浅草でいくつかの飲食店経営を経て、1997年にお好み焼き・もんじゃの店にたどり着いたのが一丁目。イチオシは店主の市川慶之さんがトマトの栄養素に目をつけて生み出したメニュー。「トマトの甘み、ベーコンの出汁、チーズのコクとパランスの取れた味です。もんじゃは和風のイメージですが、イタリアピザ風味だと、特に若い方に受けています」とのこと。尚、一丁目ではお好み焼きを「おすきやき」と呼びます。「皆で鉄板を囲み、好きに焼いて味わい、楽しんで下さい」。

おもちゃのサワダ

あかちゃんレトリバー・ トイプードル・柴犬



お店の紹介は P.24

地図 P.14-C2

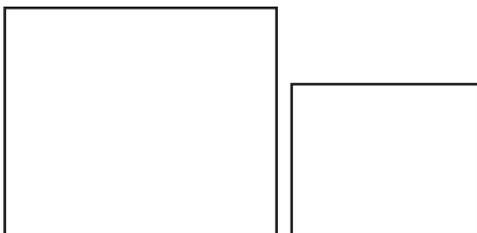
電 03-3842-7367

営 9:30~19:00

住 台東区浅草1-33-3

休 水曜日

<http://asakusa.gr.jp/shop/omocha.html>



1970年から新仲見世通りで営業している昔ながらのおもちゃ屋さん。今人気なのは赤ちゃん犬のぬいぐるみ。シッポを振りながら歩いたり、伏せをしながら鳴いたりします。「子供の笑顔を見ているお客様の楽しそうな表情がすごく印象的です。以前子供に買って、今度は孫に買って行くお客様もかなりいらっしゃいます」と店主の澤田昌宏さん。「最近の浅草は日本人の方が少ないくらい。ネットでは体験できない非日常を楽しんでほしいと思います。その際はぜひ、おもちゃのサワダにもお立ち寄り！」

浅草の保健室ネオ

牡蠣の錠剤バランスターWZ



お店の紹介は P.27

地図 P.14-C3

電 03-3841-5329

営 9:30~19:00
(土9:30~18:00)

住 台東区浅草2-1-15

休 日曜日

<http://www.neo-ph.com/>



店主の辻信之さんは20年前から「健康貯金を始めよう!」と呼びかけており、中でもイチオシなのがこの錠剤。「海の玄米・海のミルクとも言われる牡蠣の錠剤で、妊婦から100歳以上の方まで安心して飲んでいただけます。『毎日飲むようになってから、家族みんなが元気にイキイキ暮しています』の言葉をたくさんいただいています。1953年創業、学校の保健室のような温かな雰囲気のある薬局。「浅草に観光に来て『疲れた〜!!』という方は、バランスターのドリンクを飲みまじりお立ち寄り下さいませ」。

浅草周辺マップ



浅草寺マップ



浅草寺境内石碑ガイド 浅草寺境内の主だった句碑・顕彰碑

- 1 川口松太郎の句碑**
「生きるということは、むずかしき、夜寒かな」と刻む。
- 2 久保田万太郎の句碑**
「竹馬やいろはにほへとちりちりに」と刻む。
- 3 市川猿翁の句碑**
「まだ身にそはず衣がえ」という三代目市川猿助の句を刻む。
- 4 河竹黙阿弥顕彰碑**
歌舞伎狂言作者・河竹黙阿弥を顕彰して、台東区が建立した。
- 5 中村吉右衛門の句碑**
「女房も同じ氏子や除夜詣」と刻む。
- 6 並木五瓶の句碑**
「月花のたわみころや雪の竹」と刻む。
- 7 山東京伝机塚の碑**
江戸時代後期の戯作者・山東京伝の愛用した文机が埋められた上に建てられたとされる碑。
- 8 釘供養碑**
- 9 団十郎「暫」の像**
九代目市川團十郎の歌舞伎十八番「暫」の像。
- 10 映画弁士塚**
無声映画時代の名弁士たちを記念して建立。
- 11 半七塚の碑**
捕り物小説の生みの親である岡本綺堂を記念して建立。
- 12 三匠の句碑**
宗因・芭蕉・其角という三人の佳句を刻む。
- 13 正岡子規句碑**
「観音で雨に逢いけり花盛」と刻む。
- 14 芭蕉像と句碑**
「くわんをんのいらか見やりつ花の雲」の句を上部に、下部に松尾芭蕉の座像を刻む。
- 15 旧五重塔跡碑**

浅草中央エリア

●…食べる ●…買う ●…その他



中央部会員店

- 1 神谷バー
- 2 雷門 三定
- 3 もんじゃ ござやし
- 4 浅草うまいもん あづま
- 5 かと里
- 6 名代らーめん 与ろぬ屋
- 7 浅草 鮨よしだ
- 8 釜めし 麻鳥
- 9 炭火会席 蔵
- 10 お好み焼き 一丁目
- 11 和風居酒屋 魚菜
- 12 天ぶら 葵丸進
- 13 三角
- 15 喫茶クラウン
- 16 鉢の木
- 17 尾張屋
- 18 弁天山 美家古寿司
- 35 手焼きせんべい 和泉屋本店
- 36 手焼きせんべい 和泉屋観音通り店
- 37 浅草きびだんご あづま
- 38 諸国名産珍味 熊野屋
- 39 おもちゃのサワダ
- 40 婦人・子供服 東京モード
- 41 組紐 桐生堂
- 42 のれん べんがら
- 43 手焼きせんべい 和泉屋仲見世店
- 44 てぬぐい ふじ屋
- 45 あげまんじゅう 浅草九重
- 46 常盤堂雷おこし本舗
- 47 刃物 かね惣
- 48 舞扇 文扇堂雷門店
- 49 舞扇 文扇堂仲見世店
- 50 ミドリ屋
- 51 毛皮・婦人服 ミツ福ハシモト
- 52 よのや櫛舗
- 53 よ兵衛
- 54 和装履物 浅草辻屋本店
- 55 浅草の保健室ネオ
- 56 江戸金銀工芸もり銀
- 57 コマチヘア
- 73 村石電気工事

浅草北部エリア

●…食べる ●…買う



北部会員店

- 19 和風れすとらん若
- 20 レストランにいど・だもおれ
- 21 料亭 都鳥
- 22 すし処 清司
- 25 料亭 浅草田甫 草津亭
- 58 祭礼用具 宮本卯之助商店本店
- 59 株式会社製菓川喜多

山谷堀



山谷堀はかつての吉原への道筋の一つ。柳橋で猪牙船を仕立てたお大尽は、隅田川を上って今戸橋から山谷堀を抜けて吉原へ通った。現在、堀は埋め立てられたが、堀端の桜は当時の名残を残し、今日も桜の名所として知られている。

浅草富士浅間神社



毎年7月1日の富士の山開きで有名な浅間神社(せんげんじんじゃ)は、地元の人から「お富士さん」の愛称で親しまれている。江戸時代に各地に広がった富士浅間神社の信仰だが、浅草富士浅間神社は静岡県富士市から元禄年間に分社したもの。本殿外観は平成9年から10年の改修工事によって漆喰塗りが施されているが、内部には明治11年に建築された土蔵造りが残されている。毎年5月最終土日と6月最終土日に植木市が開かれ、浅草の年中行事として賑わいを見せる。

待乳山聖天



待乳山聖天(まつちやましようてん)は、正しくは待乳山本龍院という。境内のいたるところに大根と巾着を組み合わせた比翼紋があるが、これは健康増進などを祈願する聖天信仰の現れとされる。毎年恒例の大根まつりには多くの信仰者が訪れる。昔は待乳山の手前に隅田川が流れ、東都随一を誇る眺望の名所として知られた。現在はその眺めは見られないが、江戸末期に作られた長さ25メートルに及ぶ築地塀などが往時をしのばせる。

浅草西部エリア

●…食べる ●…買う



西部会員店

- 23 常寿司
- 24 天麩羅 中清
- 26 居酒屋 TAKEYA
- 27 すき焼 浅草今半
- 28 どぜう飯田屋
- 29 中国小菜 龍圓
- 57 コマチヘア
- 60 デイジー
- 61 渡辺眼鏡商店
- 62 演劇・舞踊小道具 すずや
- 63 足袋・祭用品 めうがや
- 64 祭礼用具 宮本卯之助商店西浅草店
- 65 ヤマダの家具
- 66 今昔きもの龍巳(胡蝶)
- 67 まつもと履物店

江戸下町伝統工芸館



ひさご通り内にある洒落たたずまいの江戸下町伝統工芸館は、台東区の手仕事に生きる職人さんの技術・技法を紹介する文化施設。実演のスケジュールは、ホームページをご覧ください。
<http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/shigoto/jibasangyo/kogeikan/index.html>

久保田万太郎生誕の地



久保田万太郎は、明治22年11月7日にこの地に生まれ、大正3年慶応義塾大学文科を卒業するまでの26年間在住。昭和38年5月6日に永眠するまで、明治・大正・昭和の三代に亘り、下町の義理と人情を描写した小説・戯曲等を発表し、文学・演劇界に多大な功績を残した。

浅草南部エリア

●…食べる ●…買う ●…その他



南部会員店

- 30 シーフードレストラン 月見草
- 31 ロシア料理 マノス
- 32 うなぎ 初小川
- 33 茶寮 一松
- 34 三代目魚熊
- 68 和菓子 龍昇亭 西むら
- 69 市川とうふ店
- 70 木彫 宗舟
- 71 書道用品 宝研堂
- 72 ゴルフ グリーンジャケット
- 74 ホテルサンルート浅草

駒形堂



駒形堂(こまんどう)は、浅草寺のご本尊が隅田川から示現され、上陸された地に建てられたお堂で、浅草寺の発祥の地ともいえる。現在は、ご本尊として馬頭観音が祀られている。

岡崎屋勘六(勘亭流元祖)の墓



西浅草一丁目にある清光寺の境内に、勘亭流の元祖といわれる岡崎屋勘六(文化2年2月3日に59歳で没)の墓がある。勘六は、延享3年に江戸に生まれ、日本橋で書道塾を開いていた。号を勘亭といひ、安永8年に中村座新春狂言の看板を書いたことが評判を呼び、芝居文字として勘亭の書いた文字(勘亭流)が主流となったという。

はなし塚



田原町駅近くの本法寺境内にある落語ゆかりの珍しい石碑。大戦中に各種芸能団体が演題を自粛した際、落語界でも演題の花柳界・酒・妾などに関する落語53種を禁演落語とした。はなし塚は、中に含まれた名作と先輩の霊を弔うために建立され、この塚の下には禁演落語の台本が納められた。戦後の昭和21年9月には、塚の前で禁演落語復活祭が行われた。

浅草槐の会・会員店紹介



1 神谷バー (雷門通り)

ビアホール、レストラン、割烹 地図 P.14-C1



明治13年創業、明治45年「神谷バー」と屋号を改めた日本で最初のバー。名物デンキブランチとともに皆様にご愛顧頂いております。お一人様には1階が、グループのお客様には2階レストラン、3階割烹がお勧めです。

電 03-3841-5400
住 台東区浅草1-1-1
営 11:30~22:00(L.O 21:30)
休 火曜日

<http://www.kamiya-bar.com/>



2 雷門 三定 (雷門通り)

天ぷら・和食 地図 P.14-C1



創業以来江戸前天ぷらの味を守り百六十余年。胡麻のさいた黒っぽい天ぷらですが、あと味が軽いのが身上です。店も仲見世の入口にあり、ご散策に大変便利。季節ごとになる旬の天ぷらに江戸の粋を御堪能下さい。

電 03-3841-3200
住 台東区浅草1-2-2
営 11:30~22:00(L.O 21:30)
休 無休

<http://www.tempura-sansada.co.jp>



3 こばやし (浅草メトロ通り)

お好み焼き・もんじゃ 地図 P.14-C2



当店が自信を持ってお勧めするオリジナル新商品「焼もんじゃ」。お好み焼き?もんじゃ?焼そば?独特な食感を是非お試し下さい。その他、ボリューム満点、豊富なメニューを取り揃えてお待ちしております。

電 03-3847-6733
住 台東区浅草1-34-4
営 平日11:30~23:00
土日祝11:30~22:00
休 無休

<http://www.monja.co.jp/>



4 浅草うまいもん あづま (新仲見世通り)

和食・寿司・甘味 地図 P.14-B2



なつかしい味の下町料理(和食、江戸前寿司、オムライス、自家製甘味...)を是非お楽しみ下さい。二階の掘りごたつ席での御宴会も大好評です。

電 03-3841-0190
住 台東区浅草1-32-1
営 平日11:00~21:00
土日祝10:30~21:00
休 無休

<http://aduma.tokyo>



5 かとり (新仲見世通り)

食処・茶処 地図 P.14-C2



トレードマークのダイナミックな滝を眺めつつ2階へ上がると、和モダンな空間。みつ豆や白玉、おしろこ、パフェなど、種類豊富な甘味をご用意しております。浅草散策のひと時をお過ごしください。

電 03-3841-7400
住 台東区浅草1-1-11(2F)
営 11:00~20:00(L.O 19:30)
休 木曜日

<http://asakusa-ryoin.jp/katori/>



6 名代らーめん 与ろゑ屋 (伝法院通り)

らーめん 地図 P.14-B2



醤油らーめん発祥の地、浅草昭和30年代に店主がここで毎日食べていた日本蕎麦屋のらーめんを再現しました。煮干・かつを節のかおり漂う昔ながらの和風らーめんを下町の風情と共に楽しみ下さい。

電 03-3845-4618
住 台東区浅草1-36-7
営 11:00~20:30
休 無休

<http://www.yoroiya.jp>



7 浅草 鮨よしだ (馬道通り)

寿司 地図 P.14-C3



「こだわらないのにこだわりたい鮨づくり」日本の旬を浅草で…全国津々浦々の旨い魚にこだわり、江戸前の仕事(煮蛤、鮭のづけ等)にこだわり、そしてお店よりお客様にこだわって頂きたい楽しい鮨屋です。

電 03-3845-7557
住 台東区浅草2-1-14
営 11:30~14:00
17:00~24:00
休 日曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/yoshida.html>



8 麻鳥 (公会堂横通り)

釜めし・串焼き 地図 P.14-B2



新潟県下田町より直送の100%コシヒカリを新鮮な素材と共に一釜づつ心を込めて炊き上げます。地鶏串焼も福島伊達鶏を紀州備長炭で丁寧に焼き上げます。大切な方々のおもてなしにどうぞごゆっくり御賞味下さい。

電 03-3844-8527
住 台東区浅草1-31-2
営 11:00~22:00(L.O 21:00)
休 無休

<http://asa-kusa.jp/asadori>



9 蔵 (公会堂横通り)

炭火焼会席 地図 P.14-B2



旬の素材を使ったお勧めの炭火焼会席コース、牛肉は和牛の特選焼物コース、アラカルトでは三陸産の鮑や伊勢海老などもございます。季節によって変わる焼魚も絶品です。焼物は全て炭火焼きで召し上がって頂きます。

電 03-3847-1129
住 台東区浅草1-30-10
営 11:30~23:00(L.O 21:00)
休 無休

<http://asa-kusa.jp/kura>



10 一丁目 (雷門柳小路)

お好み焼き 地図 P.14-A1



新しい味の発見です!お好焼きをわさび醤油・ポン酢・抹茶塩などでお召し上がり下さい。もちろんソースも自家製ですから食べ比べてみては? 当店の材料は全て純国産品です。

電 03-3845-7566
住 台東区浅草1-21-2
営 火水木12:00~15:00/17:00~22:00
金17:00~22:00
土日祝12:00~21:00
休 月曜日ただし祭日の場合は火曜日

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/icchome.html>



11 魚菜 (雷門柳小路)

和洋居酒屋風レストラン 地図 P.14-A1



魚菜ではテレビでも紹介された三陸産のアワビの肝ソース焼きが大人気です。一品およびコース料理もございます。大小のご予約承っております。今話題の焼酎、黒糖・芋・麦・米も取り揃えております。

電 03-3842-1919
住 台東区浅草1-17-9
営 平日17:00~23:30
日祝日12:00~22:30
休 無休

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/uosai.html>



12 葵丸進 (雷門通り)

天麩羅、季節料理、寿司 地図 P.14-A1



「旬の肴に天麩羅でちよいと一杯」季節料理に天井・天麩羅、お椅子席・お座敷席・個室席。お好みのスタイルでおくつろぎください。浅草に行きつけの天麩羅屋はいかがですか。

電 03-3841-0110
住 台東区浅草1-4-4
営 11:00~21:00(L020:00)
休 第2・4月曜日
(祝日の場合は翌日)
http://www.aoi-marushin.co.jp/



13 三角 (浅草中央通り)

ふぐ 地図 P.14-A1



明治35年(1902)の創業以来、日本料理店として気取らず下町の味を守りたいと努力しております。ふぐさし、ふぐちり、煮凍り、唐揚げ、ひれ酒、白子、特に11月頃からの白子焼、白子刺身は大人気の逸品です。是非一度ご賞味下さい。

電 03-3841-7650
住 台東区浅草1-20-7
営 13:00~22:00(L021:00)
休 水曜日、正月、お盆は不定休あり
http://www.asakusa-fugu.com/sankaku.htm



15 喫茶クラウン (観音通り)

喫茶・軽食 地図 P.14-C1



浅草駅からすぐの昔ながらの喫茶店。真心こめて淹れたコーヒーを是非ご賞味ください。モーニングセットはトーストセットとホットケーキセットの2種類。甘くてフワフワのホットケーキは人気の一品です。

電 03-3841-7500
住 台東区浅草1-2-13
営 8:00~18:30
休 火曜日(祝日の場合は営業)
http://www.asakusa.gr.jp/shop/crown.html



16 鉢の木 (公会堂東通り)

甘味・喫茶 地図 P.14-C2



浅草寺に詣で、心躍る浅草の賑わいを巡る。熱気に煽られしばしの休息。あんみつ、おしろい、いそべ巻き…。甘味を口にホッとひと息。夏のかき氷も人気です。くつろぎの和の空間にお立ち寄りください。

電 03-3843-6755
住 台東区浅草1-34-7
営 11:30~18:00
休 水曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/hachinoki.html



17 尾張屋

日本そば 地図 P.14-C1



百五十年の長きにわたり、地元浅草の方々、観音様を参拝の皆様にも広く愛されてきた老舗です。店内にある「浅草寺御用達」の看板は、浅草とともに歴史を歩む尾張屋のささやかな誇りです。そば粉は信州産を中心に、最高の国産粉を使用。本かつお節のつゆ、特注の胡麻油で揚げた天ぷらは、コクがあってさっぱりとしたあと味でご好評をいただいています。

電 03-3845-4500
住 台東区浅草1-7-1
営 11:30~20:30
休 金曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/owariya



18 弁天山 美家古寿司

寿司屋 地図 P.14-C3



創業慶応2年(1866年)。酢飯、仕事を施した寿司ダネ、新鮮な山葵と煮きり醤油、この4つのバランスによって寿司の美味しさを最大限に引き出す。江戸前すしの本来の仕事、にぎり、ツメ、ツケ、酢メ、昆布メなど、古典的技法を今もなお頑に守り続けております。

電 03-3844-0034
住 台東区浅草2-1-16
営 月~土 11:30~14:30(L0 14:00)、17:00~21:00(L0 20:00)、日祝 11:30~18:30(L0 18:00)
休 月、第3日曜日
http://benten-yama-miyakosushi.com



19 和風れすとらん若 (浅草猿若町町会事務所側)

洋食レストラン 地図 P.15



江戸の名残の和風作りのお店で、洋食と色々なお酒をお楽しみください。特製ヒレカツサンドと、のりカツロールはお子様からお年寄りまで喜んで頂けるお土産に人気です。(不定休の為、必ずお電話で御予約下さい。)

電 03-3876-2500
住 台東区浅草6-20-2
営 17:00~21:00
休 不定休
http://www.asakusa.gr.jp/shop/waka.html



20 にいど・だもおれ (浅草猿若町市村座跡)

レストラン 地図 P.15



昔の市村座の跡にあるお店です。夜は新鮮な魚介類のお料理で(活カラバガニ等)、お仲間だけの空間をお楽しみ下さい。

電 03-3874-7561
住 台東区浅草6-18-13
小竹猿若町レジデンス1階
営 ランチ11:00~14:00、ディナー1日1組予約のみ17:00~22:00
休 日祝、第2・3土曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/nidodamore.html



21 都鳥 (浅草観音裏)

料亭 地図 P.15



江戸開府四百年、だからこそ江戸の昔を体験してみませんか。花柳界の楽しさをもっと知って頂きたいと、江戸の遊びのコースを考えました。お客様には和服でお越し頂くなど、一緒に御趣向を楽しみませんか。

電 03-3874-2175
住 台東区浅草3-23-10
営 18:00~ 要予約
休 土日祝日
http://asakusa-miyakodori.com



22 すし処 清司 (浅草観音裏)

寿司 地図 P.15



すしは日本の食文化。にぎる人の心がお客様に通ってこそ本物だと思えます。特に江戸前の小肌、蛤、鱈は逸品です。鮭はもちろん本まぐろです。一味も二味も違うお寿司を是非ご賞味くださいませ。

電 03-3872-7275
住 台東区浅草3-22-12
営 月~土 17:00~25:00
祝日 18:00~24:00
休 日曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/seiji.html



23 常寿司 (たぬき通り)

寿司 地図 P.16-C1



屋台の鮓屋が提供していた昔懐かしい鮓。その味を、今も変わらず作り続けています。肩肘を張らずに、気軽に江戸前寿司を楽しみたい方、お奨め致します。是非お越し下さい。

電 03-3844-9955
住 台東区浅草1-15-7
営 11:30~21:00 休憩なし
休 月曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/tsunezushi



24 中清 (オレンジ通り)

天ぷら会席 地図 P.16-C2



数寄屋造りの離れ座敷で昔から変わらぬ味の江戸前天麩羅をごゆっくりご賞味下さいませ。

電 03-3841-4015
住 台東区浅草1-39-13
営 平日11:30~14:00、17:00~22:00 土日祝11:30~20:00
休 火曜日、第2、第4月曜日
http://www.nakasei.biz/



25 浅草田甫 草津亭 (観音裏言問通り) 料亭 地図 P.15



明治5年創業、江戸の歴史を今に伝える割烹料亭。この度10月に移転オープンいたしました。カウンター席での季節のおまかせ料理の他、本格会席をご用意しております。浅草芸妓もお待ちしております。

電 03-6802-3091
住 台東区浅草3-18-10
営 11:30~14:30(L013:30)
17:30~22:00(L020:00)
パ・タイム・21:00~23:00
休 不定休 <http://www.kusatsutei.jp/>



26 TAKEYA (浅草ひさご通り) 居酒屋 地図 P.16 - B3



昔からひさご通りは六区興行街から千束吉原に向かう人で賑わう商店街でした。当店はお子様からお年寄りまで、気楽に入れて来て良かったと思われるお店を、従業員一同心がけております。大小予約承ります。

電 03-3841-6555
住 台東区浅草2-25-5
営 平日12:00~23:00
土日12:30~14:00、
17:00~23:00
休 月曜日 <http://www.asakusa.gr.jp/shop/takeya>



27 浅草今半 (国際通り) すき焼、しゃぶしゃぶ、日本料理 地図 P.16 - B2



厳選された黒毛和牛と秘伝の割り下で、焼くように煮るすき焼きが浅草今半流。ランチタイムサービスの「明治すき焼丼」と「ステーキ丼」は、浅草の隠れ銘丼とも…。納得の味をお届けいたします。

電 03-3841-1114
住 台東区西浅草3-1-12
営 11:30~21:30
休 年中無休
<http://www.asakusaimahan.co.jp/>



28 どぜう飯田屋 (合羽橋本通り) どぜう料理 地図 P.16 - B2



磨き込まれた籐敷きに胡坐をかいてどぜう鍋一刻文豪気分です

電 03-3843-0881
住 台東区西浅草3-3-2
営 11:30~21:30(L.O 21:00)
休 水曜日、祝日は前後振替
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/iidaya.html>



29 中国小菜 龍圓 (国際通り) 中華料理 地図 P.16 - B2



心を込めた手造り料理!食で幸福感の味わい、「浅草に来て良かった、また来たい」、これが、龍圓のモットーです。本格中国料理からデザートに至るまで、心を込めて、お出し致します。

電 03-3844-2581
住 台東区西浅草3-1-9
営 平日12:00~14:00、17:30~21:00
日祝12:00~14:00、17:30~20:30
休 月曜日(祝日の場合は火曜日)
<http://www.ryuen1993.com/>



30 月見草 (浅草並木通り) シーフードレストラン 地図 P.17 - C2



魚介類を中心とした旬の食材を取り入れたシーフードレストラン。一番の人気を誇るのは鮑のステーキ、水槽の中で生きているものをすぐに調理し丸ごと一つを鮑の肝で作った自慢のオリジナルソースをかけてどうぞ。

電 03-3841-8949
住 台東区雷門2-11-8
営 12:00~15:00
17:00~22:00(L.O 21:00)
休 無休
<http://asa-kusa.jp/tsukimiso>



31 マノス ロシア風レストラン 地図 P.17 - B2



「ロール・キャベツ?いや!キャベツ・ロールです」。創業以来、作り続けて35年。元祖キャベツ・ロールといえば浅草マノス。料理は良い素材と美味しいものを作るという気持ち!今一度、おた召しあ~れ~!

電 03-3843-8286
住 台東区雷門2-17-4
営 11:30~22:30(L.O 21:00)
ただし平日15:00~16:30準備中
休 火曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/manos>



32 初小川 (雷門仲通り) 鰻蒲焼き 地図 P.17 - B2



明治40年の創業以来継ぎ足し使っている辛口のタレを使った鰻は、注文を受けてからさばき、蒸してから焼く。江戸前風七輪の炭で焼いた鰻はムダな脂が落ち、身もふっくらやわらかで上品な味わいです。

電 03-3844-2723
住 台東区雷門2-8-4
営 平日12:00~14:00、17:00~20:00 日祝17:00~20:00
休 不定休
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/hatsugawa.html>



33 茶寮 一松 (万太郎横町) 会席料理 地図 P.17 - B2



ご宴会に、季節の色で盛り付けされた茶寮一松での会席料理はいかがでしょう。お昼のミニ会席や料亭ウエディングプランなどもご用意しております。しばし浮世を離れ、浅草ならではの粋なひと時をお楽しみ下さい。

電 03-3841-0333
住 台東区雷門1-15-1
営 11:00~22:30
休 月曜日・お盆・12月は不定休・年末年始
<http://www.ichimatsu.co.jp>



34 三代目魚熊 ふぐ・魚料理 地図 P.17 - B1



魚屋から始まり、皆様に支えられて創業77年。1日も欠かさず築地では魚を手に取り仕入れしています。魚のことでは妥協致しません。お客様の「旨い」の一言のため、感謝を込めて笑顔あふれる店作りにも励みます。

電 03-3851-5914
住 台東区蔵前3-20-5
営 17:00~22:30
休 日曜・祭日
<http://uokuma.com>



35 和泉屋本店 (観音通り) あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14 - C1



良質の食材(もち米・うるち米・醤油・天然塩等)を使った、あられ、手焼きせんべい、おかきを製造しています。缶・和紙箱・竹籠の御進物セットが人気です。

電 03-3841-5501
住 台東区浅草1-1-4
営 10:30~19:30
休 木曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>

36 和泉屋観音通り店 (観音通り) あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14 - C1



このところ、堅焼の人气が復活しています。天日干しの「厚焼せんべい」。もち米の「風神雷神」。堅焼の定番げんこつ等、リピーターのお客様が増えています。

電 03-3841-8385
住 台東区浅草1-1-6
営 10:30~19:30
休 木曜日
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>

37 浅草きびだんご あづま (仲見世通り)

きびだんご 地図 P.14 - B1



江戸時代、観音様の参道・仲見世で繁昌した門前のきびだんごを再現しております。粋なにいさんと下町娘たちのきびだんご作りの実演もご覧下さい。夏の冷し抹茶や冬の甘酒も大評判です。

電 03-3843-0190
住 台東区浅草1-18-1
営 9:00~19:00
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kibidango.html>

38 熊野屋 (観音通り)

諸国名産珍味 地図 P.14 - C1



ちょっと昔、よく食べたあの口が曲がるくらい塩辛い紅サケの切身、お茶漬、お酒にぴったりの塩干ダラ、本場新島の本乾クサヤの干物等々が下町浅草でお求めいただけます。本場大分産の肉厚シタケも好評です。

電 03-3841-8089
住 台東区浅草1-19-10
営 10:00~18:00
休 木曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kumanoya.html>

39 おもちゃのサワダ (新仲見世通り)

玩具一般 地図 P.14 - C2



昔ながらのオモチャヤです。ビー玉・面子・ベゴマから、今話題のオモチャまで、品数豊富に取り揃えております。お値段もお勉強させて頂いております。皆様の是非の御来店をお待ちしております。

電 03-3842-7367
住 台東区浅草1-33-3
営 9:30~19:00
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/omocha.html>

40 東京モード (新仲見世通り)

婦人・子供服 地図 P.14 - B2



婦人服・子供服から舞台衣装・ダンスウェアまで、最新デザインの商品をサイズ豊富に取り揃えております。お値段はサイズに優しい下町価格。普段のオシャレに、ダンスやカラオケの発表会に、ぜひご利用下さい!

電 03-3841-3915
住 台東区浅草1-32-2
営 10:00~19:30
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/tokymode.html>

41 桐生堂 (浅草メトロ通り)

組紐、和雑貨 地図 P.14 - B2



当店は、商品も手作りですが内装も手作りで、材木を切ったりニスを塗ったり、気ままに楽しんでいます。竹を買って店の外側に取り付けました。下に風知草を置いて、なかなか良く出来たと思っています。

電 03-3847-2680
住 台東区浅草1-32-12
営 10:30~19:00
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kiryudo.html>

42 べんがら (浅草メトロ通りと仲見世柳通りの角)

のれん 地図 P.14 - B2



専門店ならではの品揃えて、柄・サイズも豊富に約500種類。のれんは部屋の入口に掛ける以外にも、タペストリー、カーテン、間仕切りとしても使えます。きっとお部屋にぴったりの1枚が見つかります。

電 03-3841-6613
住 台東区浅草1-35-6
営 平日10:00~18:00
土日祝10:00~19:00
休 第3木曜日



<http://www.bengara.com>

43 和泉屋仲見世店 (仲見世通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14 - B2



約100種類のあられ、手焼せんべい、おかきを販売しています。江戸情緒あふれるパッケージ(江戸童(わらべ)絵・日本人形・雷門)の手土産が人気です。

電 03-3844-2687
住 台東区浅草1-37-1
営 10:30~19:30
休 木曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>

44 ふじ屋 (弁天山側)

てぬぐい 地図 P.14 - B3



四季の草花、歌舞伎、歳時記などのオリジナル染絵でてぬぐいを額装したインテリアや、江戸時代より「そめぎれ染布」として暮らしの中で使われてきた江戸小紋などで、てぬぐいを生かした粋な暮らしをお楽しみ下さい。

電 03-3841-2283
住 台東区浅草2-2-15
営 10:00~18:00
休 木曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/fujiya.html>

45 浅草九重 (仲見世通り)

あげまんじゅう 地図 P.14 - B3



「浅草寺から三軒目」浅草九重はあげまんじゅうの実演販売のお店です。国産大豆を原材料とし、最高級のごま油を使用しています。日持ちのするお土産用のラインナップも充実し、国内はもちろんのこと、海外のお客様にも人気です。

電 03-3841-9386
住 台東区浅草2-3-1
営 9:30~19:00頃
休 無休



<http://agemanju.jp>

46 常盤堂雷おこし本舗 (雷門通り)

雷おこしを主とする菓子 地図 P.14 - B1



今も変わらぬ下町ならではの粋や人情にふれあう事の出来る浅草において、下町の心・伝統の味を守り続ける常盤堂。江戸銘菓「雷おこし」家を「おこし」名を「起こす」という縁起の良さから長い間、浅草のお土産として親しまれております。

電 03-3841-5656
住 台東区浅草1-3-2
営 9:00~21:00
休 無休



<http://www.tokiwado.tokyo>

47 かね惣 (雷門柳小路)

刃物 地図 P.14 - B1



プロ仕様から家庭用まで各種取り揃えております。創業(明治6年)以来、伝承されてきた古式鍛錬秘法の切れ味を一度お試し下さい。また、ご婚礼祝い、仏事のお返しなどにもご利用ください。

電 03-3844-1379
住 台東区浅草1-18-12
営 11:00~19:00
休 不定休



<http://www.kanesoh.com>

48 文扇堂雷門店 (雷門柳小路)

舞扇、うちわ等 地図 P.14 - B1



扇専門店として当代で四代。各流派の舞踊家、歌舞伎の役者さん、芸者さんや落語家さんなど多種多彩な方にお越し頂いております。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわもあるお店です。気楽にお立ち寄りください。

電 03-3841-0088
住 台東区浅草1-20-2
営 10:30~18:00
休 毎月20日過ぎの月曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>

49 文扇堂仲見世店 (仲見世通り)

舞扇、うちわ等 地図 P.14 - B2



雷門店同様に、古典芸能のプロの方をはじめ多くのお客様に御愛顧頂いております。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわなども御用意しておりますので気楽にお立ち寄りください。

電 03-3844-9711
住 台東区浅草1-30-1
営 10:30~18:00
休 毎月20日過ぎの月曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>

50 ミドリ屋 (公会堂横通り)

舞踊衣装 地図 P.14 - B2



舞踊衣装のことなら当店にお任せ下さい。豊富な品揃えと驚きの低価格で、きっとご希望の品が見つかります。その他、お稽古着・反物も多数取り揃えておりますので、是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3843-1441
住 台東区浅草1-30-11
営 10:30~18:00
休 毎月第2・4火曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/midoriya.html>

51 ミツ福ハシモト (新仲見世通り)

毛皮、革、婦人服 地図 P.14 - A2



当社は、大正3年毛皮専門店として浅草千束で創業。昭和20年に現在地に移転し、毛皮を中心に皮革製品、夏は麻・綿素材、冬はシルク・ウール・カシミア等の天然素材を活かした婦人既製服を扱っています。

電 03-3844-3441
住 台東区浅草1-30-6
営 10:30~19:30
休 不定休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/hashimoto.html>

52 よのや櫛舗 (伝法院通り)

黄楊櫛、黄楊製品 地図 P.14 - A2



伝法院通りにあり浅草寺、六区方面から大変に便利です。小店舗ですがつけ櫛の種類も豊富で、また櫛やかんざしの使い方も丁寧にアドバイスさせて頂いております。是非一度御来店下さい。

電 03-3844-1755
住 台東区浅草1-37-10
営 10:30~18:00
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/yonoya.html>

53 よ兵衛 (仲見世通り裏)

揚餅・お団子 地図 P.14 - B3



サクッと軽くお味はしっかり。昔懐かしい母の味「揚餅」を食べていただくため、無駄なものは一切加えず、素材で香ばしい味を再現しています。お味は生醤油やしお、カレー、生醤油唐辛子など6種類。是非ご賞味あれ!

電 03-3841-0868
住 台東区浅草2-2-7
営 9:00~18:00
休 不定休



<http://www.agemochi-yohei.com/>

54 浅草辻屋本店 (伝法院通り)

和装履物 地図 P.14 - B2



浅草花柳界をはじめ、和装にうるさいお客様に愛され育てられて百年目。長く履いても痛くならず疲れない、熟達した職人の技が生きる鼻緒のすげ。「浅草好み」の履物を豊富な品数で取り揃えております。

電 03-3844-1321
住 台東区浅草1-36-8
営 10:00~19:00
休 無休



<http://www.getaya.jp/>

55 浅草の保健室ネオ (馬道通り)

クスリ 地図 P.14 - C3



浅草で創業63年のくすり屋です。一般薬・健康食品・ヒノキ肌粧品など取扱っております。なんでもお気軽にご相談くださいませ。

電 03-3841-5329
住 台東区浅草2-1-15
営 9:30~19:00
休 土9:30~18:00

休 日曜日
<http://www.neo-ph.com>



56 江戸金銀工芸もり銀 (オレンジ通り)

銀製品全般 地図 P.14 - A2



日本の金銀工芸は西暦600年代より始まり、江戸時代に入って花開きました。現在もその時代からの手法を引き継いで、銀の食器類・アクセサリー等自家製作販売をしております。日本の伝統文化を表す品々と自負しております。

電 03-3844-8821
住 台東区浅草1-29-6
営 10:30~18:30
休 無休

<http://www.asakusamorigin.com>



57 コマチヘア (第一店・新仲見世通り、第二・三店・仲見世通り) かつら・頭飾品 地図 P.14 - B2, P.14 - B3, P.16 - C1



大正14年創業以来、職人気質の「かつら」づくりに徹しています。日本髪から男女洋かつら、ヘアピース、余興かつら、かんざしまで、豊富に取り揃えております。舞台化粧用品も、お気軽にご相談ください。

電 03-3841-8191 (第一店)、5523 (第二店) 7434 (第三店)
住 台東区浅草1-28-3 (第一店)、1-31-1 (第二店) 2-3-1 (第三店)
営 10:30~19:00 (第一店) 平日9:30~18:00、土日祝日9:30~19:00 (第二店) 9:30~18:00 (第三店)
休 無休 <http://www.komachi-hair.co.jp/>

58 宮本卯之助商店本店 (吉野通り)

太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P.15



文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3873-4155
住 台東区浅草6-1-15
営 9:00~17:00
休 土日祝日

<http://www.miyamoto-unosuke.co.jp>



59 株式会社製菓川喜多

菓子製造、販売 地図 P.15



弊社は戦後まもなく川喜多忠之助により、おこし製造から始まりました。駅、高速SA等でおなじみの「東京サン」等の問屋様への卸売販売、老舗様のOEM製造を中心としてきましたが、現在では「浅草の菓子屋」になりきると、「浅草川喜多」の名前の洋菓子の製造・販売に重点を置いております。工場直販です。

電 03-3875-0013
住 台東区浅草5-56-4
営 9:00~17:00
休 日・祝日(土曜日不定休)

<http://www.s-kawakita.co.jp>



54 浅草辻屋本店 (伝法院通り)

和装履物 地図 P.14 - B2



浅草花柳界をはじめ、和装にうるさいお客様に愛され育てられて百年目。長く履いても痛くならず疲れない、熟達した職人の技が生きる鼻緒のすげ。「浅草好み」の履物を豊富な品数で取り揃えております。

電 03-3844-1321
住 台東区浅草1-36-8
営 10:00~19:00
休 無休



<http://www.getaya.jp/>

60 デイジー (新仲見世通り)

バッグ、小物 地図 P.16 - C1



魅力的な貴女をより輝かせるバックと小物。デイジーはそんな貴女にピッタリカラフルな品揃えで心までウキウキ間違いナシです。オリジナル品を中心としたオサイフや札入れも個性的な貴女にピッタリ特注・別注・修理も大歓迎です。

電 03-3847-8118 (FAX共通)
住 台東区浅草1-22-10
営 10:00~19:30
休 不定休 2ヶ月に1回ほど

<http://www.asakusa.gr.jp/shop/deiji.html>



61 渡辺眼鏡商店 (ためき通り) めがね 地図 P.16-C1



創業明治20年の眼鏡専門店です。オリジナルフレーム、アンティークフレーム、眼鏡ケース、眼鏡チェーンなど他所には無いものをお探しの方はちょっと覗いてみて下さい。眼鏡修理も承っております。

電 03-3841-7466
住 台東区浅草1-16-7
営 09:30~19:00
休 火曜日(祝日の場合は営業)



<http://www.watanabemegane.com>

62 すずや (西参道商店街) 演劇、舞踊小道具 地図 P.16-C2



時代劇や踊りに興味のある方、いろいろな小道具が並んでいます。近くにお出かけの時にはお気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3844-3798
住 台東区浅草2-7-13
営 10:00~18:00
休 火曜日



<http://www.asakusasuzuya.co.jp/>

63 めうがや (言問通り) 足袋、祭用品 地図 P.16-C3



“めうがや”と書いて「みょうがや」。旧仮名で“どぜう”を「どじょう」と読むのと同じです。夏に麻足袋、柄足袋も多種揃っています。お祭には、オリジナルの祭用品で粋にキメて下さい。

電 03-3841-6440
住 台東区浅草2-27-12
営 10:00~19:00
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/myogaya>

64 宮本卯之助商店西浅草店 (国際通り) 太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P.16-B1



文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3844-2141
住 台東区西浅草2-1-1
営 9:00~18:00
休 年中無休



<http://www.miyamoto-unosuke.co.jp/>

65 ヤマダの家具 (合羽橋通り) 家具・内装工事・リフォーム 地図 P.16-A2



飲食店のイス・テーブルの製造販売と内装工事を承っております。最近ではイスの張替、リフォーム工事等、大変好評です。お見積りはもちろん無料ですので、大小にかかわらずどうぞご相談ください。

電 03-3843-6656
住 台東区松が谷3-2-12
営 9:00~17:30
休 日曜・祝日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/yamada>

66 今昔きもの 龍巳(胡蝶) (オレンジ通り・伝法院通り角) 着物 地図 P.16-C2



胡蝶では、大正・昭和のアンティーク着物から、最近のリサイクル着物・帯などを格安にて販売しております。また、本店・龍巳にて、日本舞踊の貸衣装・かつらのレンタルも承ります。

電 03-3843-7606
住 台東区浅草1-39-11
営 10:30~19:00
休 無休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/kocho.html>

67 まつもと履物店 (浅草ひさご通り) 和装履物専門店 地図 P.16-B3



自店で仕上げた草履、下駄、雪駄等を商う和装履物専門店。1899(明治32)年、浅草千束町二丁目にて創業。代々継承される職人技術と徹底した品質管理を経た、(株)まつもと履物店の和装履物をぜひ一度、お試しください。

電 03-3841-2461
住 台東区浅草2-22-11
営 10:00~20:00
休 火曜日



<http://www.wasou-hakimono.com/>

68 龍昇亭西むら (雷門通り) 和菓子司 地図 P.17-C2



看板の栗むし羊かんはもちろん、大桃山金龍、東京かすていら、昇り鮎など浅草の催事と、季節に因んだ品々は大人気です。創業は江戸中期と古く、安藤広重の「雷門前図」にもお店が描かれています。

電 03-3841-0665
住 台東区雷門2-18-11
営 09:00~20:00
休 不定休



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/nishimura.html>

69 市川とうふ店 (万太郎横町) 豆腐 地図 P.17-B2



浅草の老舗飲食店への卸を中心に、国産大豆にこだわり手作り豆腐一筋三代にわたるお店です。店頭での販売ではなく“おぼろ豆腐”が人気です。水にまったくくもらさない、大豆風味豊かな味を一度御賞味下さい。

電 03-3841-1357
住 台東区雷門1-14-3
営 5:00~19:00
13:00~16:00は休憩
休 水曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/tofu.html>

70 宗舟 (浅草消防署手前右入) 木彫刻 地図 P.17-B2



初代より百年以上にわたり社寺、仏像、置物などの木彫刻を専門に手掛けてきました。一階はギャラリーで、大黒様や聖観音菩薩など仏彫刻、根付け、小盆なども展示しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3845-0458
住 台東区寿4-12-2
営 10:00~17:00
休 日曜日・祝日



<http://so-syu.jp>

71 宝研堂 (江戸通り駒形どぜう裏) 書道用品専門店 地図 P.17-B2



ご愛用の硯を研ぎ直し目立てをします。面を整地し直し厳選された砥石をかけ、仕上げに丸一日かけます。これを行うのと行わないのとでは、使用感、見た目にも驚くほどの違いが出ます。是非一度お試しください。

電 03-3844-2976
住 台東区寿4-1-11
営 平日9:00~18:00
第1・3日曜10:00~17:00
休 第2・4・5日曜、祝日



<http://houkendo.co.jp>

72 グリーンジャケット こだわりのゴルフ用品 地図 P.17-B1



梅雨時のゴルフの必需品!夏場や雨のゴルフでグリップが滑りませんか?ゴリラゴールドが滑りを全て解決します。(全国販売店募集中)他所で見られないゴルフグッズをいろいろ揃えています。

電 03-3847-0871
住 台東区浅草3-12-5
営 口ワール浅草寿201号
10:00~18:00
休 日曜日・祝日



<http://www.green-jacket.co.jp/>

73 村石電気工事 (仲見世会館そば)

電気工事業 地図 P.14 - B2



右の写真は当社が電気工事をした、汐留シティーセンタービル41階のFISHBANK(フランス料理店)です。このような工事を手がけ、また特殊ランプ等も販売しています。是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3845-2345
住 台東区浅草1-32-9
営 08:00~17:00
休 日曜日



<http://www.asakusa.gr.jp/shop/muraishi.html>

74 ホテルサンルート浅草 (田原町駅前・国際通り沿い)

ホテル業 地図 P.17 - A2



田原町駅から徒歩1分!特に出張のお客様には、気取らず、それでいて質の高いサポートを第一に考えております。また、お食事とお飲み物は24時間"jonathan's"が提供致します。装い新たになったお部屋を是非お試しください。

電 03-3847-1511
住 台東区雷門1-8-5
営 チェックイン14:00
チェックアウト11:00
休 無休



<http://www.sunroute-asakusa.co.jp/>

浅草文化観光センター

台東区浅草文化観光センターは、浅草寺を中心とする浅草の文化的遺産の保護・再発見に努めるとともに、広く全国に紹介するための施設。浅草の持つ特有の庶民文化や行事等の故事来歴などを紹介している。2012年4月20日(金)にリニューアルオープンしました。開館時間午前9:00~午後8:00。(年中無休)

台東区観光ボランティアガイド

台東区では、観光に来られた方の案内役として「観光ボランティアガイド」制度を設けています。利用できる人数は、2~3名の小グループから団体まで幅広く、「浅草寺を中心とした思わぬ発見コース」など、さまざまなご相談に応じてコースを設定してご案内しています。台東区観光ボランティアガイドに関する詳しいお問い合わせ、お申し込みは次のところまで。

台東区観光ボランティアガイド事務局

☐ TEL:03-3842-5599 FAX:03-6673-3046 ☐ ホームページ <http://www.taitouboragai.com>

槐の会からのお知らせ

浅草槐の会(あさくさえんじゅのかい)は、浅草寺のご本尊の聖観世音菩薩が、推古天皇36年(628年)3月18日、隅田川で示現され、槐の木(現在の駒形堂あたり)に安置されたといういわれから「浅草槐の会」と称しました。浅草槐の会では、楽しい浅草情報を、ホームページ、瓦版、などで紹介いたしております。また、四季折々の浅草を自由に、楽しく散策していただきたく、地図、歳時、名所、旧跡を中心に編さんした『日本の扉浅草』を刊行いたしております。この冊子が、皆様の浅草散策のお役に立てば幸いです。



えんじゅ
浅草槐の會事務局

※この冊子は、槐の会会員店舗にて無料配付しております。